

# 創造 おおいた

Oita Prefectural Organization  
for Industry Creation

中小企業の元気創造！  
「挑戦」「創造」「継続・伴走」  
公益財団法人大分県産業創造機構

Creation Oita

NO.255

2022.7

## トップインタビュー

Top Interview

株式会社エリア

代表取締役 樋口 嘉 氏



## 企業紹介

Company Profile

3SEEDS株式会社

代表取締役 黒枝 士揮 氏



## 新時代

～持続可能な地域の未来に向けて～

有限会社オレンジ農園

代表取締役社長 片岡 正子 氏



- 02 明日のおおいた  
三井住友信託銀行(株)大分支店  
支店長 永井 剛 氏
- 03 トップインタビュー  
株式会社エリア  
代表取締役 樋口 嘉 氏
- 06 企業紹介  
3SEEDS株式会社  
代表取締役 黒枝 士揮 氏
- 08 新時代  
～持続可能な地域の未来に向けて～  
有限会社オレンジ農園  
代表取締役社長 片岡 正子 氏
- 10 スタートアップセンター  
「おおいた起業家事情」  
..... ロビンハウス
- 11 大分県よろず支援拠点  
支援事例1..... コックル  
支援事例2... 合同会社ONSPACE
- 12 TOPICS 1  
取引振興課紹介
- 13 TOPICS 2  
6次産業化に取り組む事業者紹介  
..... 本田バラ香園
- 14 TOPICS 3  
「大分県ドローン産業社会実装促進  
事業費補助金」の募集開始について
- 15 広告  
アール株式会社  
株式会社シャーロック  
～大分県立図書館～ 今月の新着図書
- 16 第20回  
大分県ビジネスプランGP



**公益財団法人 大分県産業創造機構**  
〒870-0037 大分市東春日町17番20号  
ソフトパークセンタービル  
TEL.097-533-0220 FAX.097-538-8407  
E-mail oric24@columbus.or.jp  
URL <https://www.columbus.or.jp>

# 寄稿 明日のおおいた

## 皆さまのご資産の「安心」をサポートする ベストパートナーを目指して



三井住友信託銀行株式会社 大分支店  
支店長

ながい ごう  
**永井 剛 氏**

昨年の10月に支店長として大分に赴任しました。  
大分は約14年ぶりの勤務になります。

当時駅前にあった国体マスコット「メジロン」がなくなり、アミュプラザができ、  
駅南側はホルトホールや商業施設、マンションが立ち並びと、随分都会的な街並へと  
変貌を遂げていました。

非常に驚いたのと同時に、当地でしっかりと地に足のついた、このエリアに役立つ  
活動を行っていきたく強く思いました。

さて、人生100年時代と言われる昨今ですが、我が大分県では、健康上問題のない  
状態で日常生活を送ることが出来る期間である「健康寿命」を延ばし、全ての県民が  
生涯にわたり、健康で活力のある生活を送ることが出来るよう「健康寿命日本一」の  
実現を目標に掲げております。

2021年12月の発表で、男性は73.7歳で全国1位、女性は76.6歳で同4位とそれ  
ぞれ飛躍的に順位を上げ、男性は「日本一」を達成しました。これは大変喜ばしいこ  
とです。

しかし、人生100年時代、お客さまの人生や生活にいつ大きな変化が訪れるかは分  
かりません。

- ・最近、記憶力や体力が落ちてきて心配している
  - ・以前、銀行に「預金の引き出しは本人しかできません」と言われて困った
  - ・万が一の時の資産管理をどうしたらよいか分からない
  - ・多額の医療費が必要になった場合に円滑に支払いが出来るか不安だ
- というようなお声をお客さまから頂いており、弊社はそのような貴重なお声から  
「100年パスポート」という商品を開発しご提供しております。

弊社の推計では、全国の65歳以上の認知症高齢者数は、足元の約588万人から、  
2030年には約731万人に増加する見込みであり、今後高齢化社会における認知症へ  
の備えが今まで以上に重要となってきます。

「100年パスポート」は、お元気な時期に加えて、将来の認知症や健康の不安、ま  
た相続発生時にも備えることが出来る信託商品で、信託の機能と多様なサービスを通  
じ、さまざまな場面でお客さまにお金やご資産に関する「安心」をご提供し、高齢化  
社会におけるお客さまの日々の生活と資産管理をトータルでサポート致します。

弊社は、大分県内に拠点を持つ唯一の信託銀行です。  
また、財務コンサルタント、トラストコンサルタントが在籍していることも特徴です。  
資産運用・ローン等の通常の銀行業務に加え、不動産、相続・贈与等の信託業務を  
営んでおり、長年培ってきた高度な専門性と多種多様な商品・サービスを通じて、み  
なさまのベストパートナーとなることを目指しております。

前述の通り、高齢化社会への備えとして、弊社では「認知症バリアフリー宣言」を  
行うとともに、大分支店全員がひとり一人の人生と真摯に向き合い、人生100年時代  
を安心してお過ごしいただくためのお役に立つことで、大分のみなさまと共に発展・  
成長してまいりたいと考えております。

### プロフィール

生まれ/1965(昭和40)年 東京都 現在 大分市在住

- 《学 歴》1991(平成3)年3月 名古屋大学大学院 工学部建築学科 修了
- 《経 歴》1991(平成3)年4月 三井信託銀行(現 三井住友信託銀行)入社、新橋支店配属
- 2006(平成18)年5月 中央三井信託銀行(現 三井住友信託銀行)大分支店 課長
- 2017(平成29)年1月 三井住友信託銀行 本店 営業第十四部 次長
- 2019(令和元)年5月 金融法人部 審議役
- 2021(令和3)年10月 大分支店長(現職)



# トップインタビュー Top Interview



チャレンジが未来を切り開く！  
エレクトロニクス製品の安全を  
守り続ける企業。

株式会社 エリア

代表取締役 樋口 嘉氏

半導体不足が社会問題化する一方で、AI技術の進化、EV普及、自動運転技術の開発競争等、半導体を取り巻く話題は枚挙にいとまがない。とりわけ九州においては、半導体受託生産の世界最大手・TSMCの熊本進出が注目を集めており、人材確保を含めてその動向が注視されている。大手半導体メーカーが集中する大分県において、半導体産業は県経済を牽引する重要な役割を担っている。国内トップクラスの半導体テスト技術を有する株式会社エリアが、この秋、杵築市で新工場の操業を開始する。樋口嘉代表に、同社の事業展開と業界の展望について話を聞いてきた。

ひぐち よしみ  
樋口 嘉氏

■略歴 株式会社エリア代表取締役。1961年、別府市生まれ。1979年 大分工業高校電子科を卒業、東京工学院専門学校で学び、1983年から関東、大分の県内の電子・半導体技術関連の企業に2社に勤務。1993年9月に株式会社エリアを設立し、現在に至る。

## ■ 大型クリーンルームを整備した 新工場を操業

——今年9月で創業30周年を迎えますが、今日に至るまでの経緯をお聞かせください。

樋口 私は大分工業高校電子科を出て専門学校を卒業後、半導体関連の企業2社に従事しました。当時、いずれも私が担当した取引先が日本テキサス・インスツルメンツ社（以下「TI社」）であり、その縁があって創業時から直接TI社との取引を開始することができました。当初から半導体のテスト技術を手がけており、これが現在の礎となっています。半導体は厳しいテストを経て様々な電子機器に搭載されます。特に自動車用の半導体は不良や誤作動は許されません。設立当初から「半導体テストはエレクトロニクス産業の安全を守っている」とその重要性を当社の方針としてきました。当時は9人のエンジニアが在籍していましたが、私自身は経営者としてのチャレンジは初めてのことであり、大分県産業創造機構が主催するマネジメント講

座に通っていたことが思い出されます。創業当初はTI社の受注が大半を占めていたのですが、1社依存からの脱却を目指して、東芝やソニーをはじめ大手メーカーとの販路拡大に注力するようになり、現在は自動車メーカーやティア1も含め、多岐にわたる取引先を有するまでになっています。

——創業以来、様々なチャレンジを実践してきたと聞いております。

樋口 ソフトウェア開発の事業所を開設して介護システムや畜産の通信システム等の開発を行ったり、自社ブランドの半導体テスター開発、さらには佐伯で生ゴミ処理機の開発支援、臼杵の豆腐工場を買収して食品製造を手がけたこともありました。いずれも業績が悪かったわけでもないのですが、現在はすべて売却・撤退して半導体事業に集中しています。ベンチャーキャピタルからの投資を受けた時期もあったのですが、これに伴い上場企業並みの会計制度も導入しました。このように様々なチャレンジを繰り返してきましたが、



アナログ半導体テスト開発では国内トップの実力を誇る

すべて現在の経営資源のひとつになっているのは間違いありません。

——半導体需要が高まるなか、杵築市に新工場の操業を予定されていますね。

**樋口** 半導体テスト工程の需要増に対応するため、新工場の計画的取得が出来ました。今年秋の操業開始に向けて準備をしている最中です。キャパ的にも現在の社屋では作業環境がピークに達しており、新工場移転で作業スペースの拡大に加え、大型クリーンルームも設置しており、受託製造もさらに増やしていきます。現在の立地場所も海岸と接近しており、自然災害に対する不安もありました。BCP（事業継続計画）対策も万全な体制を整えるようにしています。

## ■ 半導体テストターンキーの確立で事業拡大

——デジタルでは処理しきれない微細な音声や電気信号等を検査するアナログテスト分野において、御社は国内トップクラスだそうですね。

**樋口** アナログ半導体では世界一とされるTI社との取引を通じて培った技術力が、大きく貢献しています。テスト開発の専属部門を持つ半導体メーカーは多数ありますが、独立系企業で開発用テスターを5台保有するなど設備が充実している企業は国内では皆無とされています。これら設備と技術がある故に成立しているビジネスモデルが「半導体テストターンキー」です。通常、半導体工程では開発と製造（テスト開発と量産テスト）は分業されており別々の企業や部署が担います。

弊社のビジネスモデルの半導体テストターンキーとは、半導体製品の設計段階からテスト手法の立案、テスト開発（ソフトウェア開発、ハードウェア開発）を行い、半導体テスト環境を立上げ、量産テストまで受託します。

半導体テストにおいて開発と製造のワンストップサービスを実現させています。

——いわば御社がハブ的存在となって、LSI工程の一貫化を実現しているのですね。



操業開始に向けて準備中の新工場（杵築市）

**樋口** 商社機能の有することから、最近では韓国ミルテック社と九州エリアの外環検査装置の販売委託契約を結ぶなど、ビジネスのステージが広がっています。もともとイタリア、ドイツなど海外のテスターメーカーの販売支援は、早くから手がけていました。

世界最大手の日本メーカーが席卷する日本市場での販売拡大には、テスターをサポートする技術部隊の存在が必須ですからね。

——海外メーカーとの取引も大きな強みになっているのでしょうか。

**樋口** 自社での半導体テスト開発を手がけるきっかけとなったのが、産業創造機構から「モノづくりフェア」に参加しないかと声をかけられたことでした。会場でドイツのメーカーとのマッチングが成立し、同社のテスターをエリアに導入して受託開発をするようになったのです。最近では中国のテスターメーカーが好調で、成長が著しい中国市場で急激に伸びており、日本法人も設立されたので、その販売及び技術サポートも注力して行きます。

——2020年に「大分県地域牽引企業創出事業」に認定されていましたが、一連の取り組みが寄与しそうですね。

**樋口** 定量目標として県に提示したR7年までの目標である売上高、付加価値額1.5倍は、来年度前倒しで達成しそうですね。新事業も立上げ次の中期目標売上高10億円、付加価値額5億円を掲げて取り組み始めています。

## ■ “ものづくり精神”を体現できる人材育成へ邁進

——働き方改革に熱心な企業という評価も高まっています。

**樋口** 雇用管理状況の優良企業を厚生労働大臣が認定する「ユースエール認定企業」を取得しており、大分県認定の「しごと子育てサポート企業」も取得済みです。人材確保の厳しさが増すなか、職場環境の整備は喫緊の課題となっています。九州の半導体業界では、





新工場では顧客要求に対応する為、大型クリーンルーム・少量多品種向けクリーンブースを設置



新事業の外観検査装置

熊本に世界トップの半導体メーカーTSMCが進出してくる影響で、採用活動も熾烈を極めてくることが予測されます。当社としても、残業時間や勤務体制の改善には早期から着手してきました。

——大分県地域牽引企業創出事業でも、「持続的な成長のための技術者の増員・育成」目標を掲げていましたね。

樋口 人づくりは、どの業界でも重要な位置付けになっています。当社は自社の教育だけではなく大分県LSIクラスター形成推進会議において人材育成を担って参りました。県内企業の新人社員や学生向けに半導体基礎教育を毎年、企画開催しております。延べで2000人以上を輩出してきました。

当然、当社内でも技術教育だけでなく様々な教育を実施しています。2年前から、組織改革に取り組んでおり、将来管理職を希望する社員を募りエンジニアもマネジメント研修を受講しています。次世代の組織づくりを万全に固めていく計画です。加えて採用説明会も、人事担当者だけでなく現場の技術者が企画やプレゼンを行い、求職者が会社に入ったならどんな仕事をするのか想像できるような求人活動にしています。

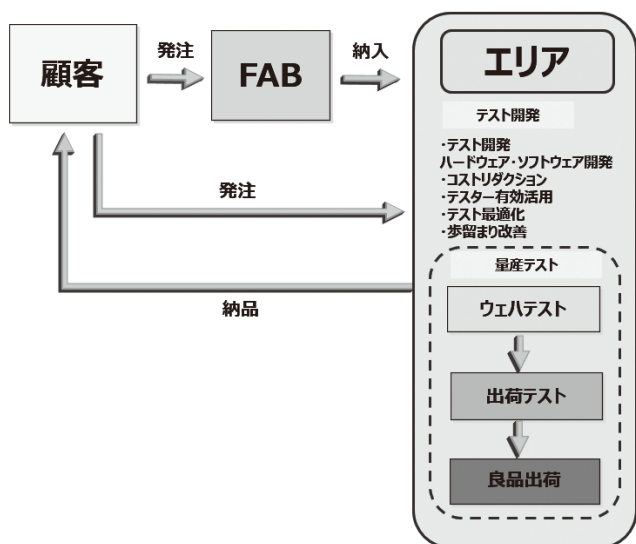
——ただ“技術”を得るだけでなく、“ことづくり”に携わる誇りを持って、という意味ですね。ところで永

らく半導体業界に身を置かれている経営者として、現状の動向をどのように感じていますか。

樋口 世界半導体機構によると、2020年度の市場規模は41兆円に対し、2030年は52兆円、2050年には75兆円とさらに拡大していくと予測しています。AI社会の進化、ビッグデータ管理、移動通信システムの整備から、自動車産業のEV移行や自動運転化に至るまで、半導体需要に関する事案は次々と持ち上がっています。当社の受注量シェアも、現在は自動車関連が大きく占めており、創業当初とは様子が一変しています。ところが、かつては半導体市場を席巻していた日本ですが、気がつけば遅れを取ってしまっているのが現状です。逆に“世界の工場”といわれていた中国の技術力が進化し、台湾、韓国と並び市場を牽引するまでになっています。それでもイメージセンサー・車載・パワー半導体を中心に、“日の丸半導体”復権の気運が高まっているのも事実です。半導体不足が社会問題化するなか当社の業績自体は向上しており、持ち前の行動力を活かして、少なからず半導体業界に貢献できるよう、業界での存在感を高めていくようチャレンジを続けていきたいと考えます。

## 企業データ

|           |  |
|-----------|--|
| 会社名       | 株式会社エリア  |
| 代表者       | 代表取締役 樋口 嘉   |
| 所在地       | 速見郡日出町大字豊岡字岩垣799番地1<br>TEL 0977-73-2485  |
| R4年9月1日より | 杵築市大字日野1669番地9<br>TEL 0978-64-2485   |
| 設立        | 1993年(平成5年)9月  |
| 資本金       | 1億円  |
| 従業員数      | 31名  |
| 事業内容      | 【半導体テストターンキー事業】<br>半導体テストソフトウェア開発・ハードウェア設計製作評価・テスト環境立上げ・半導体量産テスト請負<br>【装置ターンキー事業】<br>外観検査装置販売・技術サポート<br>各種自動機設計製作・立上げ<br>各種装置調達販売・設置工事 |
| URL       | <a href="https://www.elia-jp.com/">https://www.elia-jp.com/</a>  |



半導体テストターンキーのイメージ図

# 企業紹介

地域貢献活動を通じて  
サイクルスポーツの魅力を発信する

## SparkleOitaRacingTeam (3SEEDS株式会社)

“大分=車社会”に例えられることも多いが、最近では自転車で移動する人の姿を見る機会が増えたように感じる。近年多発している自然災害や震災、またコロナ禍の生活において注目された自転車は、日常生活に密接した移動手段であり、しかも健康的かつ環境にも優れている点で人々の関心を増した。自転車がもつ可能性を引き出し、地域貢献を志すプロサイクルチームの活動と取り組みを聞いた。

### 大分は国際大会が催される 「自転車競技選手強豪」県

大分には、日出陽谷高校や別府翔青高校など、全国でもトップクラスの自転車競技選手を輩出する学校があり、全国的に「自転車が強い県」として知られているという。実際に、国体でも4回の総合優勝を飾っている。しかし、大分県にプロチームが存在するサッカーやバレーと違い、マイナースポーツとされる自転車競技は一般の人に認知してもらおう機会が少なかった。プロとして活躍できる場がなく、大学進学や社会人になったのを機に関東圏のチームや世界リーグを目指して海外で活動するといった選手が大半だった。

大分駅周辺をメイン会場とし、サイクリストが市内コースを駆ける「Oita サイクルフェス!!!」も実は、今年で10回目の開催となり、全国大会から国際大会に昇格してすでに5回、自転車の世界的レースが大分で行われていることを知らない人は多い。県出身の同社代表黒枝士揮は、イタリアでプロサイクリストとして、また国内プロチームに在籍して競技活動を続けてきた。しかし以前から『大分で自転車競技の認知と関心を高めたい』といった想いは途切れなかったという。

現在の活動をスタートするきっかけとなったのは、奇しくも新型コロナウイルス感染拡大だった。プロとして活動し成績を刻みたいと思いつつも、大会やレースはことごとく中止・延期に見舞われる。コロナ禍で落ち込



Sparkle Oita Racing Teamのホームとなるカフェの店内

みを隠せない大分の状況にも心が傷んだ。「プロサイクル選手が活躍する場所を作り、自転車への興味関心を引き上げ、大分を元気にしたい」と逆転の発想から奮起した。

### 欧州プロチームのあり方をモデリング

とはいえ、プロチームを立ち上げてスポーツビジネスを確立することは難しい。チーム成績がその後のあらゆる活動に直結しやすく、単に努力するだけでは事業運営を継続させることが困難だ。

そこで、サイクルスポーツが盛んなイタリアの「地域密着型プロサイクルチーム」スタイルを軸に掲げて活動することにした。欧州では、地元企業がプロチームに寄付や支援をするシステムが一般的であり、また寄付そのものに魅力を感じるような文化が整っている。そのため、プロチームに協力、応援する空気がその地域一体に漂っているのだ。

幸いにも大分県は、地域での活動がしやすい規模感であることに加え、地元を応援する姿勢や意識も高い。創業時はクラウドファンディングで協力金を募り、またSNSなどを活用した広報宣伝活動が功を奏し、資金調達を実現することができた。

まずはチームに所属するプロが地元で活動する場を作り、サイクルスポーツを身近に感じてもらえるよう貢献度を上げる。大会で好成績を積み、そこでプロサイクリストへの支援にステータスを感じてもらえれば、認知度をさらに上げてスポンサーの協力も得やすくなる考えた。



プロとして国内外レースで活躍してきた選手たち 日々県内各地で練習を重ねている





九州に熱狂を生み、世界に挑む。

大分に待望のプロサイクルチーム  
Sparkle Oita Racing Team 誕生！

疾走感あるロゴマークはサポーター企業の支援システムにも活用

## 観光資源と恵まれた道路環境から 自転車の魅力発信

山、川、海と自然豊かな大分県は、ヨーロッパにたがわず自転車を走らせるには優れた環境だ。自然の風を感じながら心地よいサイクリングが楽しめる。また、諸外国と比べれば、日本は自転車を走らせやすい道路事情であり、子どもから大人まで、日常の移動手段として当たり前前に自転車を活用できている。

創立から間もない会社だが、プロと参加者が共に自転車で走るファンライドや、ロードバイク試乗会など、すでに県内でいくつものサイクルイベントを企画し、多くの参加者を集めている。直近では、筋肉柄のライドスーツに身を包み日田市を駆ける『100人サイクルパレード』というユニークな催しを成功させた。

車で訪れるような市外の自然観光地も、自転車で駆け抜ければ、開放感を味わえる癒しの時間となる。サイクルツーリズムは、時に足を止めて景色を堪能し、地元の飲食店が目につけばふらりと立ち寄れるのが魅力だ。

イタリアにはサイクリストが立ち寄るカフェが多い。大分にもサイクリングの休憩の場として、また人とのふれあいや仲間の語り場として活用してほしいと願い、あえて大分駅近くに同社のホームとなるクラブハウスの自転車プロショップとカフェを設けた。コーヒーをはじめメニューにもこだわり、おいしさと楽しさと、自転車の魅力を発信する基地となっている。

## “自転車×〇〇”の コラボレーション企画で地域活性を

多くの支援と協力の元でスタートしたSparkle Oitaは、同じ思いをアートの世界で繰り広げる大野哲郎氏と“自転車×アート”コラボを実現した。世界的にも人気の高い同氏のイラストrinne（リンネ）プロジェクトイベントは、今後継続して行う予定だ。

また、プロサイクリストが学校に出向き、自転車の乗り方について子どもたちと交流する取り組みをスタートさせ、今年度はすでに3校で自転車教室を開催することが決まっているという。

「自転車は、子どもが一番初めに触れる社会のルール。『ダメだ・危ない』というのではなく、楽しさの中で“安全な乗り方を考える力”を育むのが大切なんです」



自転車×食をテーマに人気パン屋さんの出張販売を企画  
開店から数時間で完売する盛況ぶりだった

（同社黒枝美樹氏）まさに“自転車×教育”であり、この催しをきっかけに、子どもみずから自転車の安全について考え、親子で自転車の乗り方や整備を語らしてほしいと願っている。

また、“自転車×食”として、天然素材を使用した人気のパン屋がカフェで定期販売を行なうなど、地域と自転車、そしてプラスのエッセンスを巻き込んで、楽しさを提供していく企画も予定しているという。

## 地域活性のために 「上手く利用してもらおう」が理想

同社のスポーツ事業は、存続を成績に託すのではなく、共同・協働型の支援モデルになることを目指している。もちろん、協力を得るためにはレースでの活躍が必須条件だ。そこで、選手が好成績を収めるために練習環境をバックアップしてもらい、支援企業のブランド力向上に寄与するといった、相互のメリットを活かせる経営体系を理想に掲げる。

「もし企業様が集客イベントを催すのであれば、私どもを上手に活用してほしい。自転車は健康な体作りに役立ち、人力で動くエコロジーな乗り物としてSDG sにも貢献できる。私たちのフィールドには、これからの世の中にとってプラス要素と可能性がまだまだある」

これからの社会で求められる、環境や健康、教育などのテーマとニーズが、自転車を通じて解消できるという着眼点は鋭く新しさを感じる。流行では終わらない、持続可能な事業の先駆けとして、ロールモデルとなる活躍を今後も見守りたい。

### 企業データ

|      |   |
|------|---|
| 会社名  | 3SEEDS株式会社  |
| 代表者  | 黒枝 土揮   |
| 所在地  | 大分市大字羽屋1-4-9<br>クラブハウス、COLORS BIKE & CAFÉ<br>大分市顕徳町1-13-17    |
| 設立   | 2019年（令和元年）12月  |
| 資本金  | 200万円   |
| 社員数  | 12名（選手6名）   |
| 事業内容 | プロチーム「Sparkle Oita Racing Team」の運営<br>地域創造事業、カフェ・ショップ事業       |
| URL  | <a href="http://sparkle-oita.jp/">http://sparkle-oita.jp/</a> |

# 新時代

～持続可能な地域の未来に向けて～

## 有限会社オレンジ農園

農家の規格外品を商品に変え  
食品ロス削減に挑む



JGAP取得、エコファーマー認定された自家農園の柑橘類を使う

農家にとって、味はよくてもサイズや形状が規格に合わず出荷できない規格外品は、悩みの種。社会問題となっている食品ロスを増やす一因でもある。『有限会社オレンジ農園』の代表・片岡正子さんは、家業の柑橘農園から出る規格外品のほか、市内の他農家のものも活用し、魅力あふれる商品を開発して販路を拡大している。看板商品「飲むゼリー」シリーズのほか、昨年発売した「かぼす夫人」シリーズは、ユニークなキャラクターが若い人たちに人気。「もったいない」から始まった取り組みが、柑橘のまち・杵築の新たな魅力発信へとつながっている。

### 柑橘農家の規格外品を生かす 6次産業化への道

ぷるん、となめらかな食感。果実の濃厚な風味。いわゆるゼリーともジュースとも違う「飲むゼリー」シリーズは、『オレンジ農園』の看板商品だ。原料のカボスと温州ミカンが自家製、河内晩柑とイチゴ、キウイは杵築市内の農家から規格外品を買い取り、自社で加工している。

代表の片岡正子さんは、大阪府出身。「結婚して大阪に家も建て、ずっと大阪に住むと思っていました」という。結婚前は生命保険会社の事務をしていて、子育てが落ち着いたなら復職を考えていたが、サラリーマンの夫から「郷里の杵築に帰って実家の農業をやりたい」と言われた。1年半悩んで杵築に移り住んだのが2002年。子どもが3歳と0歳の時だった。

夫の実家は、祖父の代から続く柑橘農家。子育てしながら通える近場には勤め先がなく、しばらく農業を手伝っていたが、「朝から晩まで作業をしても収入はわずか。夫の収入もサラリーマン時代より大幅に減り、何か農業でできることはないかと考えました」。

その頃、ハウスでハーブ栽培を手がけて成功していた大阪の知人を訪ね、自分も挑戦してみようと2004年に

起業。実家で余っていたハウス1棟を利用してスペアミントの栽培を始めた。ママ友たちの協力を得て大阪中央市場に出荷し、年商1,000万円にまで事業を拡大したが、大手食品会社の参入で価格競争に勝てなくなり、2015年にハーブ事業を終了。次に目を付けたのが、実家の農園で大量に出る規格外品だった。味はいいのに、サイズが大きすぎたり小さすぎたり、果皮に傷が付いていたりして出荷できない規格外品は、破格値でJAに買い取ってもらった廃棄処分するしかなく、「もったいない」と感じていた。6次産業化にも興味があった片岡さんは、そんな規格外品を生かす加工品をつくりたいと、大分県産業創造機構に相談を持ちかけた。

### 「飲むゼリー」からスタートして 「かぼす夫人」シリーズで販路拡大

「食品づくりはまったく素人でしたが、専門家を派遣していただき、製造からデザイン、販路開拓まですべてゼロから教えていただいたおかげで事業化できました」と話す片岡さん。ハーブのパック詰めに使っていた作業場を加工所に改装し、杵築市や杵築市商工会からの補助金を活用して機械を導入。試作を繰り返し、カボスの「飲むゼリー」が完成した。

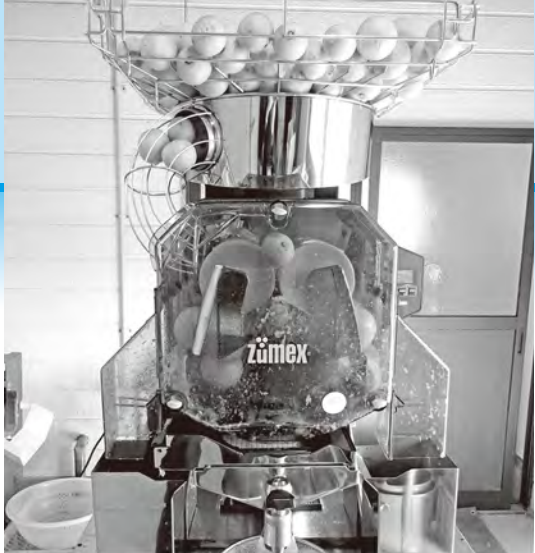


「飲むゼリー」シリーズ(前列)と、「かぼすジンジャーハニー」「かぼすほん酢」

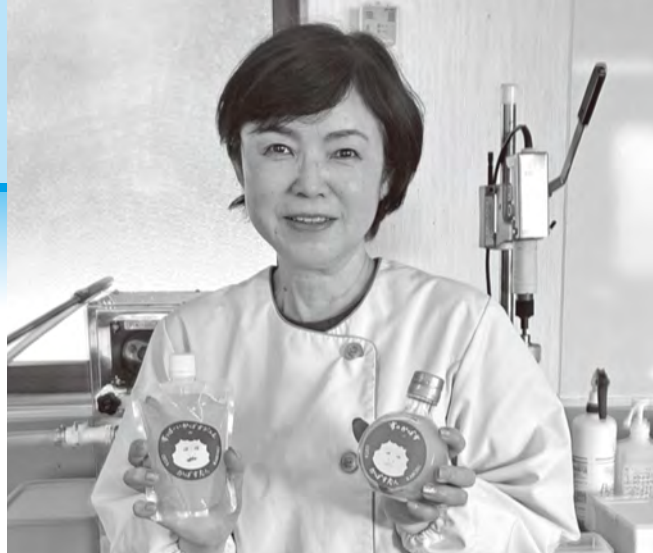


イラストが目を引く「かぼす夫人」シリーズ





素材のよさを壊さずに压榨するズーメックス社の搾汁機



加工品づくりは苦労もあるが楽しい、という片岡さん

大分県主催の「おんせん県おおいた味力おもてなし商品コンクール」に出品したところ、大分空港と別府湾サービスエリアから引き合いがあり、2017年7月に取引を開始。1か月で1500個を売り上げるという好調なスタートを切った。その後、徐々に果物の種類を増やし、他農家の規格外品も活用。2019年には総合化事業計画の認定を受け、取引先も県内から西日本各地の百貨店や土産物店へ広がっていった。

飲むゼリー以外にも、自家農園のカボスと県産はちみつを合わせた「かぼすジンジャーハニー」、果汁をぜいたくに37%も配合した「かぼすぼん酢」などを開発。原料を吟味し、できる限り添加物を入れないこと、片岡さん自身がおいしいと思うものをつくることを大切にしている。

大分の特産品であるカボスは、酸味が強すぎず、ミネラル由来の塩味・苦味・甘味が素材の味を引き立たせてくれる、料理の名脇役。若い人や県外の人にもカボスにもっと親しんでほしいと、昨秋、市内在住の友人たちと協力して、「かぼす夫人」と名づけたキャラクターを考案した。イメージは「人生の酸いも甘いも知り尽くした大人の女性」。ちょっぴりシニカルで愛きょうのあるキャラクターは、手芸作家の岡本美香さん(neco company主宰)がししゅうでデザインし、デザイナーの森浩さんが商品ラベルに仕上げた。

「かぼす夫人」シリーズとして発売したのは、カボスが主役の「すーっぱいカボスジュレ」と、果汁100%の「すのかぼす」。インパクトのあるビジュアルも功を奏し、これまで百貨店や土産物店が中心だった取引先が、若い客層の集まる雑貨店やカフェにも広がったという。

## 地域の食品ロスを減らしSDGsの取り組みに貢献したい

今後の計画を聞くと、近々発売予定という新商品の話が次々と飛び出す。まず、捨てていた果皮を生かす「かぼすピール」と「ゆずピール」。さらに、ポンカン、はるみ、美娘など、自家農園と市内の農家が生産した9種類のミカンで作るストレート果汁ジュースも発売する。そのために昨年末、新たにスペイン・ズーメックス社の

搾汁機を導入。果皮をソフトに押さえて搾汁することで、えぐみを出さず、果実本来の味を引き出せるという。

「杵築ではたくさんの種類のミカンが作られ、市内のスーパーには一年中ミカンが並んでいます。そのほかイチゴの生産高は県内1位だし、野菜も豊富。漁業も盛んでハモやカキが信じられないほど安い。城下町で歴史があり、伝統技術を受け継ぐ味噌醸造元や木製品の店なども残っています。こんなにポテンシャルが高いのに、地元ではその魅力に気づいていない人が多いのが残念です」。県外出身だからこそ実感する杵築の魅力を伝えたい、という思いは、商品開発にも生かされている。

県内各地から持ち込まれる規格外品をゼリーやジュース、ぼん酢などに加工するOEMの受注も増えており、ナシやウメなど柑橘以外の加工も請け負う。「これからも農家の規格外品を収入につなげるお手伝いをして、食品ロスを減らし、SDGsの取り組みに貢献したい」と意欲的だ。

最後に、新たな事業にチャレンジしたいと考えている人にメッセージをお願いすると、「こんなことをしたいと頭の中で思っているだけでなく、人に言うことが大切。言うことで次のステップに進めます」とのアドバイスが返ってきた。素人からのスタートでも、周囲に相談しながらノウハウを身につけ、時代の流れに合わせて事業を展開してきた片岡さん。地域の資源を最大限に生かす商品づくりが、持続可能な地域の未来につながることを期待したい。

## 企業データ

|      |   |
|------|---|
| 会社名  | 有限会社オレンジ農園  |
| 代表者  | 片岡 正子   |
| 所在地  | 杵築市中642-1<br>TEL 0978-63-0671                                   |
| 設立   | 2004年(平成16年)6月17日   |
| 資本金  | 300万円   |
| 従業員数 | 1名  |
| 事業内容 | 農産物を使った食品製造業  |
| URL  | <a href="https://orange-nouen.com">https://orange-nouen.com</a> |

# おおいたスタートアップセンターいち押し 「おおいた起業家事情」

平成27年に設置された「おおいたスタートアップセンター」多くの方が、創業や新事業に取り組んでいます。このコーナーは、おおいたスタートアップセンターが注目する起業家や、話題に迫ります。

## 今月の注目起業家は

令和3年5月にステッカーを車に貼って  
広告宣伝する「CAR告」事業で起業した  
シャルマ アルジュン さん (21歳) です!

### ロビンハウス

代表 シャルマ アルジュン (Arjun Sharma) さん

所在地 大分県別府市田の湯町3番7号

アライアンスタワーZ4階

電話 080-2154-7000

E-mail [carkoku.official@gmail.com](mailto:carkoku.official@gmail.com)

Instagram [carkoku\\_japan](https://www.instagram.com/carkoku_japan)

Facebook <https://www.facebook.com/CARKOKUJAPAN/>



した結果、現在はタクシー会社と提携しテストマーケティングを行っています。実際に広告の検討に入っている企業もあります。初めは小さかったステッカーですが、お客様の声を反映し、サイズも大きく見やすく変更しました。リアパネルにステッカーを貼ることで、後部の視認性が気になりますが、メッシュ加工されていて運転席に座っても気になりません。取替も簡単にできます。広告の内容も、商品やサービスの販売促進だけでなく、企業のブランドイメージの向上になるようなものを考えているそうです。例えば、携帯電話会社が「運転中の携帯禁止」のようなステッカーを貼れば、CSR (Corporate Social Responsibility) 活動にもなります。街中で「CAR告」のステッカーを貼った車を見かけたら、ぜひ注目してみてください。

今後は、広告の追跡効果測定ツールを作り、タクシーの走行距離とリーチ数などを蓄積していくことで、より広告の費用対効果を明確にしようと、システム開発についてインドのエンジニアと具体的に話し合っているところです。



### ■これから

「ビジネスは一人ではできない、たくさんの人に支えられていることを実感しています。」と語るシャルマさんは、起業し、多くの失敗や苦労を経験したそうです。特に、営業や確定申告などは経営者となって初めてその大変さに気づきました。学生起業特有の学業と起業の両立も当初は苦労したそうですが、スケジュール管理を工夫した結果、成績も改善し、そのことが自信につながっているそうです。起業して得たものは、「経験」「チャンス」「人脈」「スケジュール管理法」「スキル」。通常の大学生活では得られない、貴重なものばかりです。今後については、「失敗することが怖くなくなってきました。とりあえずやってみる、おもしろい人生を送りたい。周りが喜んで、自分が楽しめる人生がいいですね。」とさわやかに話してくれました。

今回ご紹介する起業家は、ロビンハウス 代表 シャルマ アルジュンさんです。インド生まれ、小中高と群馬県で過ごし、立命館アジア太平洋大学 (APU) 国際経営学部への入学を機に来県しました。現在、同校4回生のシャルマさんは、コロナ禍の3回生の時に起業し、現在は起業家と大学生という二つの顔をもちます。起業の動機や事業の現状と課題、これからについてお聞きしました。



### ■起業の動機

コロナ感染症が広がり始めた2020年、大学の授業はオンラインになり、リアルな学生生活が失われました。その中で、もともと車が好きで、その維持費やガソリン代にお金がかかることが悩みだったシャルマさんは、個人の車にスポンサーを付け、広告を出すことでその費用を賄うことができないか考えました。大分県で市場調査をした結果、調査した人の中で約7割が維持費に困っていることがわかり、ビジネスチャンスと捉えました。

2020年度の「Oita International Students' Startups Support Project」(おおいた留学生スタートアップ支援事業)に応募したところ、インベスターズピッチ登壇チームに選出され、アイデアを実現させるためのアドバイスをもらい、日本人ビジネスパートナーと出会うことができ、起業に至ります。

### ■CAR広告事業の今

シャルマさんが展開するCAR広告事業「CAR告」は、提携しているタクシー会社のタクシーにステッカーを貼り、商品やサービスを広く宣伝するサービスです。

個人の車を対象としてはじめた事業ですが、試行錯誤



# 大分県よろず支援拠点 支援事例

事例  
1

## コッキル

(韓国料理店 大分市)

住所◆大分市府内町1丁目4-16 河電ビル1F 電話◆097-574-6800  
HP◆<https://www.instagram.com/ggotgill/>

(篠原CO、工藤崇CO、飯田CO 担当)

### 相談内容

- ・コロナ禍ではあるが、移転オープンを行う。
- ・そのために必要な、資金の確保や、事業計画の作成、集客の取り組み、就労体制の確立など、全般に関して相談したい。
- ・また、社内におけるコミュニケーションを円滑にし、組織力の強化を図りたい。

### 課題の整理・分析 (強みの発見)

- ・韓国系シェフが本場の味を伝えることができる。
- ・インスタグラムを中心とした情報発信等についての心得がある。
- ・大分市内には、若者をターゲットとした韓国料理店が少ない。
- ・常に韓国のあらゆる文化に注目をし、日本とマッチングしやすいジャンルの検討や、多角化経営について意識を傾けている。
- ・コロナ禍において、テイクアウトにも向くメニューも豊富である。

### 提案内容

- ・銀行からの融資を受けるための取り組みを説明し、詳細な事業計画の作成支援を行なった。
- ・有料の広告は使わずに、プレスリリースを活用し各メディアからの取材要請が起きるような仕組み作り及びSNSの効果的な活用方法について支援した。
- ・ターゲット層のニーズを分析し、メニュー開発及び提供方法の支援を行った。
- ・社内コミュニケーションをより図りやすくし、ブランド力を強化していくために、経営理念・ビジョンの明確化や誰がいつ何を、店舗を切り盛りしていくのかがわかるマニュアルを作成した。
- ・雇用に伴う就業規則の作成や給与計算など日々の業務内容を説明し、支援を行った。

### 成果 (相談者の声)

自分たちの思いがしっかりと入った事業計画書ができ、スムーズに融資を受け、経営革新計画の取得もできました。オープン2年目を迎え、インスタグラムのフォロワー数も7500人を超え、集客に非常に役立っています。期間限定ショップ「コッキルトースト」と「コッキルピンス」の2店舗を「アミュプラザ大分」に出店することもでき、今後も大分に日本に韓国文化が広がる一翼を担ってまいります。



府内町にある明るい雰囲気のお店



一番人気のランチメニュー「スンドゥブ定食」



代表のシン・ジェホ、平松しのぶ夫妻

事例  
2

## 合同会社ONSPACE

(就労継続支援B型事業所 大分市)

住所◆大分市王子中町3-6 電話◆080-5270-7538  
mail◆[onespace.11111@gmail.com](mailto:onespace.11111@gmail.com)

(南CO、宮崎CO 担当)

### 相談内容

- ・ワンスペース (部屋貸) の事業に取り組みたいと相談に来られ、場所の選定から資金調達等の相談に対応した。
- ・その後、現事業 (部屋貸) を活用して就労継続支援B型事業所を開設したい旨の相談に移行した。

### 課題の整理・分析 (強みの発見)

- ・創業から順調に推移してきたワンスペース事業であったが、新型コロナウイルス感染症のまん延により、就労継続支援B型事業の開設に向けての資金調達が課題となった。
- ・コワーキングスペース運営事業と福祉事業を一体的に運用することが可能である。
- ・経営者は障害福祉分野におけるサービス管理責任者の資格を有しており、福祉の経験も十分あることを確認した。

### 提案内容

- ・開業前から資金調達の方法や金融機関に対しての説明の仕方から始まり 現在まで多様な課題に対して支援を行った。
- ・今回、部屋貸という既存の事業に加え、新たに就労継続支援B型作業所を開設するため、他の単一的な作業所とは違い、利用者が<楽しい> <好き>を仕事に、というコンセプトづくりや運営方法を提案した。

### 成果 (相談者の声)

まだまだ今後どのようなようになるのか不透明なところもありますが、今は全力で利用者のために明るい雰囲気、利用者が活躍できる場所の提供に力を注いでいます。引き続きよろず支援拠点の力を借りながら、事業を軌道に乗せて、生き残っていきたくと考えています。



古山尚志 代表取締役



店舗内観

いろんなジャンルの  
専門家が！

中小企業診断士 税理士 社会保険労務士 IT・WEBサービス 金融 広告戦略 デザイナー  
イラストレーター 知的財産 販路開拓 マーケティング 税務 経営戦略 労務管理

お問い合わせ、お申込みは **こちら** まで！



中小企業・小規模事業者のための無料経営相談所  
**大分県よろず支援拠点**  
TEL 097-537-2837  
FAX 097-534-4320

■営業時間 8:30~17:00 (月~金曜、土日、祝日)

■電話受付 月曜日~金曜日 (祝日等を除く)

ホームページ <https://www.yorozu-oita.go.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/oitayorozu/>





## 6次産業化に取り組む事業者紹介

# 本田バラ香園

杵築市山香町の「本田バラ香園」が、令和4年2月28日に国の6次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画の認定を受けました。自社で栽培したバラを活用した高級感のあるボックスフラワーの新商品開発及び販売事業の取り組みを始めるので、本田さん夫婦にお話を伺いました。

### 【会社紹介】

本田さん夫婦は、花き専門農家として平成6年からバラ栽培に取り組みましたがその後、輸入バラの増加に伴う単価の低迷で、平成26年には農協出荷を止め、個人出荷に取り組むようになりました。このことを契機にバラの付加価値をより高めるため、観光農園、加工にも取り組み現在に至っています。

バラの生産は夫の幸夫さんが担当し、販売（生花、アレンジ、加工）は奥さんのあけみさんが担当しています。栽培するバラは香りのする品種が中心で、平成19年にはオランダから始まった花き生産総合認証MPSの認証を受け、減農薬、環境負荷の低い農薬の使用等に取り組んでいます。また農薬は、食用バラ栽培で認められたものだけを使用しています。

幸夫さんは、お客さんに香りのする安心安全なバラを提供することをモットーとしており、このことが本田バラ香園の特徴であり、県内外に多くのファンがいます。

生産したバラの殆どは市場に出さず、あけみさんが直販、ネット通販（HP、SNS）、卸（ホテル、百貨店等）で販売しています。コロナ禍で直販、観光農園は大打撃でしたが、新たな販路開拓やネット通販が好調で危機を乗り切ることができました。

**場所：杵築市山香町大字吉野渡1604-13**

**代表：本田幸夫**

**TEL：0977-78-0505**



ボックスフラワーの新商品

### 【6次化に取り組む想い】

当園では長年、ドライにしたバラの花弁を用いてシュガー、和紅茶、アイス等の加工商品を販売してきましたが、利益率が低く、中には赤字になるものもありました。また、観光農園やネット通販で数多くのファンがいるのですが、顧客管理が不十分で、客層ごとの訴求が戦略的にできていないのが現状でした。

このため総合化事業計画を作るに当たり、より利益の出せる加工品の絞り込みや、顧客の見直し、分類、リスト化を行い、訴求方法を検討しました。さらには近年、消費が増えているボックスフラワー（写真）の新商品を開発しました。箱に入っていますので日中、留守の場合は冷蔵庫内で保管できますし、最後は花を風呂に入れてバラ湯も楽しめます。食用バラとして栽培されたものですから安心です。これから、本格的な販売に取り組む予定です。



総合化事業計画認定証交付式(R4.2.28)

### 【今後の抱負】

後継者の予定もありますので、総合化事業計画期間中に売上を伸ばし、経営の安定化を図りたいと考えています。

大分県は、かつて西日本有数のバラ産地でしたが、輸入バラの増加により他県と同様、生産農家が激減してしまいました。しかし、バラに特別な思いを持つ愛好家やバラの豪華さに感動するお客さんは依然として沢山います。

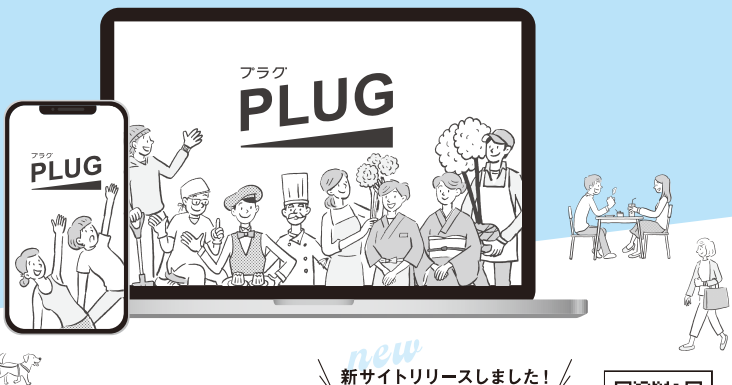
香りのする安心安全で新鮮なバラを、いつまでもお客様に提供していきます。





# 2度目の Webサイト制作

小規模事業者にも最適な  
サイト構築・保守・マーケティングの  
トータルサービス。



R アール株式会社  
R corporation .,ltd.

〒870-0933 大分市花津留2丁目2-18 ヴィルヌーブ2F  
☎ 097-552-0117 ✉ info@r-co.jp

new  
新サイトリリースしました！  
PLUG サイトはこちら



おおいた **ウェブマーケティング塾**

メルマガ登録無料

ウェブマーケティングの基礎を、  
無料でやさしく学べます！

今月は



## 『SEOは順位アップだけじゃない』

「SEOとは何か？」をきちんと理解できていますか？

詳しくはページを  
チェック！



大分地域密着型ウェブコンサルティング 株式会社 シャーロック  
https://sherlocks.co.jp/ 大分市内町三丁目4番20号

フリーコール **0800-777-6469**

## 今月の 大分県立図書館 新着図書



【お問合せ】大分県立図書館 情報サービス担当 TEL:097-546-9971  
https://www.oita-library.jp/ (蔵書検索ができます)

県立図書館では、ビジネスパーソンを応援するために、企業、  
経営等に役立つ実用書や雑誌を集めた「仕事とくらしの情報  
コーナー」を設置しています。ぜひご利用ください！

★毎月第2日曜日に経営無料相談会実施中(協力:大分県中小企業診断士協会)

### 『Unlocking Creativity チームの創造力を解き放つ最強の戦略』

マイケル・A.ロバート／著 花塚 恵／訳 東洋経済新報社 2,000円＋税

### 『業種別業界情報 2022年版』

中小企業動向調査会／編著 経営情報出版社 22,381円＋税

### 『税務・経理・人事ハンドブック 2022年度版』

DHB制作委員会／著 シーアンドアール研究所 1,830円＋税

### 『社長の年金・退職金相談と事業承継初期対応の実務』

奥野 文夫／著 中川 善行／税務監修 日本法令 2,700円＋税

## IT担当者のためのテレワーク時代の セキュリティ対策

テレワークという働き方も増え、新たなマルウェア対策や情報漏洩対策など、個人がセキュリティ意識を高める必要が出てきました。本書では社内外でのデータやPCの活用に必要な最低限のITリテラシーとテレワーク環境下で必要なセキュリティ対策を取り上げ、重要度・対象環境・難易度・目的を示しながら、安全な環境の構築からデータを守る方法までを解説しています。Windows11にも対応しています。



橋本 和則／著 翔泳社  
2,000円＋税

第20回

# 大分県 ビジネスプラン GP

## チャレンジを 応援します!

補助金総額  
— グランプリ枠 —

**2,000**  
万円(見込み)

補助金総額  
— チャレンジ枠 —

**250**  
万円(見込み)



あなたのビジネスプランをお待ちしております

応募期限 **8/17** 17時 受付開始 **6/1** (水)

公益財団法人 大分県産業創造機構 経営支援課

大分県ビジネスプラングランプリ 検索  
ホームページアドレスはこちら  
URL ▶ <https://yukichi.jp>



QRコードから  
HPにアクセス  
いただけます

☎ 097-537-9111 FAX ▶ 097-534-4320  
mail ▶ [yukichi@columbus.or.jp](mailto:yukichi@columbus.or.jp)  
キービジュアル: 米村知倫(Yone)